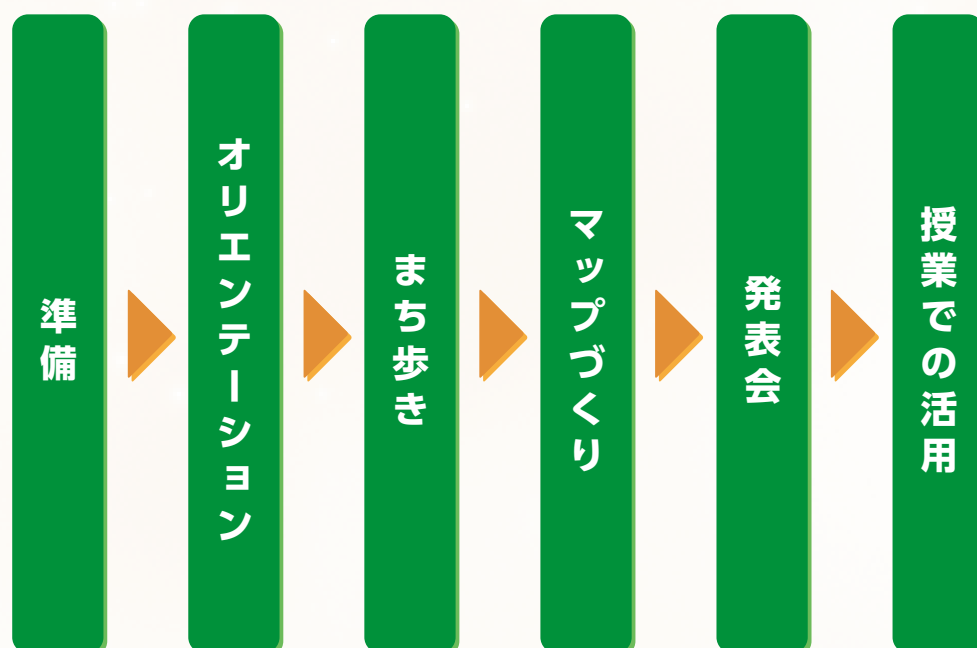




3. 授業の実践



1 | 準備

1 地図の入手と対象エリアの決定

- 「まち歩き」する場所の位置や様子がわかるよう、学校区の地図を用意する（市教委で学校区毎の住宅地図を入手することが可能です）。
- まち歩き、マップづくりの対象とする範囲、エリア割りを決定します。
- 必ずしも全学区を一度に対象とする必要はありません。

2 グループの決定

- 対象エリアの数に応じて、対象となる児童・生徒のグループ分けを行います（1グループにつき4～5人程度）。
- 配慮が必要な子どもは事前にチェックし、スクールカウンセラーや保護者等と相談し、負担にならないエリアを担当させます。

3 備品を揃える

- まち歩き、マップづくりに必要な備品を揃えましょう。
（例）カメラ、模造紙、分類シール、ペン、情報、分類カード用のカラー用紙、等

4 保護者や地域への協力依頼

- まち歩きの見守り、インタビューの依頼など、保護者や地域の方に「復興・防災マップづくり」を行うことを予めお知らせし、協力を依頼します。

WS-①

【復興・防災マップ】
1. 目的
復興・防災マップづくりを通じて、被災地への支援や復興の促進を図る。
2. 対象
被災地を訪問する児童・生徒とその保護者、地域の関係者。
3. 実施方法
被災地を訪問し、復興の様子や被災者の生活の様子を観察し、インタビューを行う。
4. 実施時期
被災地訪問後、児童・生徒が学校で復興の様子や被災者の生活の様子を話し合い、復興・防災マップを作成する。
5. 実施場所
被災地訪問先、学校。

WS-②

【復興・防災マップ】
1. 目的
復興・防災マップづくりを通じて、被災地への支援や復興の促進を図る。
2. 対象
被災地を訪問する児童・生徒とその保護者、地域の関係者。
3. 実施方法
被災地を訪問し、復興の様子や被災者の生活の様子を観察し、インタビューを行う。
4. 実施時期
被災地訪問後、児童・生徒が学校で復興の様子や被災者の生活の様子を話し合い、復興・防災マップを作成する。
5. 実施場所
被災地訪問先、学校。

2 | 学習の流れ

「復興・防災マップづくり」の一例として年間の学習の流れと、学習に用いるワークシートとの関係を示します。



図1 学習の流れとワークシートの活用

WS- は、別冊③「ワークシート集」に対応しています

1 事前アンケートの実施

授業前後での児童・生徒の認識、理解の変化を把握するため、学習開始前とすべての学習が終了した後にアンケートを実施します。

- アンケートの内容は、単元の目標によって変わりますが、例えば、以下の質問を行うことができます。
- 防災をテーマにした場合には、以下のような質問を行うことも可能です。

WS-③

2. 震動発生時、避難の仕方について何を知りたいですか？(複数回答可)

たぐりまわす	立ち止まる	はたきをはく	机の下に隠れる	机の下に隠れる	机の下に隠れる
その他					

3. 上記質問で、おぼつかない箇所を教えてください

4. 防災について、学校で習ったことが役に立っていますか？

役に立っています	役に立ちません	どちらかといえば役に立ちます	役に立ちません	役に立ちません
----------	---------	----------------	---------	---------

5. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

6. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

7. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

8. 上記質問で、おぼつかない箇所を教えてください

WS-④

2. 震動発生時、避難の仕方について何を知りたいですか？(複数回答可)

たぐりまわす	立ち止まる	はたきをはく	机の下に隠れる	机の下に隠れる	机の下に隠れる
その他					

3. 上記質問で、おぼつかない箇所を教えてください

4. 防災について、学校で習ったことが役に立っていますか？

役に立っています	役に立ちません	どちらかといえば役に立ちます	役に立ちません	役に立ちません
----------	---------	----------------	---------	---------

5. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

6. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

7. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

8. 上記質問で、おぼつかない箇所を教えてください

2 家族へのインタビュー

これからは、震災の記憶があまりない子どもたちが活動の対象になってきます。その際、家族のインタビューという形で震災の当時の様子を知ることは、さらに大切なものとなってくると考えられます。

- まち歩きとマップづくりの開始前に、保護者に対してあらかじめ活動のねらいや計画等を知らせ、協力をお願いし、学習に関心をもってもらうことが大切です。(学校と家庭の連携)
- インタビュー内容についても、十分に吟味し心的ストレスにならないよう配慮します。
- 答えたくない家族には、無理にインタビューしなくても良いことを伝えましょう。

WS-⑤

おうちの人にインタビューをしてみよう！

1. 防災について、学校で習ったことが役に立っていますか？

役に立っています	役に立ちません	どちらかといえば役に立ちます	役に立ちません	役に立ちません
----------	---------	----------------	---------	---------

2. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

3. 防災について、疑問に思っていることはありますか？

はい	いいえ	どちらかといえば	はい	いいえ
----	-----	----------	----	-----

4. 上記質問で、おぼつかない箇所を教えてください

3 オリエンテーション

オリエンテーションでは、以下の項目を確認し、まち歩きの前準備をします。

これからの活動に関連する学習や意欲づけのための授業を行います

- 目的をはっきり知らせ、これからの学習に対する見通しをもたせます。
- 地域の方や他学年に発表する予定があれば、そのことを前もって伝え意欲につなげます。
- 事前学習として、地域の方をお招きしてお話をうかがうこともできます。

(例: 湊小)

- ・石巻市の津波警報時のルールを学ばせる
- ・避難場所の様子を撮影したビデオを見せる

(例: 住吉中)

- ・ゲストレクチャーから「住吉地区の地形と土地利用の変遷と災害について」学ぶ

(例: 中里小)

- ・防災士、阿部さんから話を伺う
「災害の際にどんなものが役に立つか」
「どんな情報が必要か」

(例: 鹿又小)

- ・行政委員、自宅防災組織リーダーにインタビュー

※詳細は別冊①「実践事例集」を参照ください。

地図を学習します

■ 学区の地図の説明します。

- 自分たちが「まち歩き」する場所の位置や様子がわかるよう学区全体の地図を用意します。
- 対象学年に応じて地図の学習をします。
- 事前に学校で、国土地理院の地形図等で学区全体の地形、石巻市のハザードマップ等で学区の情報を把握しましょう。(P.25 ~ P.29 「4. 地域の地形、土地利用の変遷を理解するための地図とその活用例」を参照ください。)

■ 自分の担当のエリアを地図上で確認させます。

- 「まち歩き」の対象を学区全体にするか、特定エリアをにするかは、学校や地域の実態に応じて決定します。

まち歩きの計画を立てます

■ 発見ポイントの分類を確認します。

- 目標に応じて各校で設定します。
「まち歩き」の発見ポイントの分類の意味を知らせ、何を見てくるのか、どういうところに気をつければよいのか、子どもたちがきちんとわかるようにする。そのことが「まち歩き」の目標を明確に理解することにつながります。

■ インタビューを準備します。

- インタビュー先には、学校から事前に趣旨を伝え、依頼します。
- 何を知るためにインタビューするのか、子どもたちから説明できるようにしておきます。
- インタビュー先への質問を考えさせ、インタビューシートに簡潔に書き込ませます。
- インタビューは子どもたちが行います。予めインタビューの順番や質問を決めさせます。

■まち歩きに持参する物を確認します。

- 生活科バッグまたはバインダー、まち歩き用ワークシート、インタビュー用ワークシート、地図、カメラ、筆記用具、等

※小学校で実施する場合は、保護者やボランティアに同校してもらえよう予め依頼しましょう。

■グループ毎に「まち歩き」の計画を立てます。

WS-6

- 意欲的に活動に参加できるように一人一人に役割を分担し、目的意識を共有できるよう配慮します。
- 交通安全や写真のとり方、挨拶等の注意事項を確認します。

まち歩き けいかく
まち歩きの計画をたてよう！ 記録エリア

〇学校 〇日 〇月 〇年

□ 役割を決めよう！

役割	役割の説明	担当する人の名前
リーダー	持ちまのめ、インタビューの時、質問と回答のあいだをつなぐ。	
記録係	まち歩きしながら、確認したことをメモする。	
カメラ係	発見した場所や建物、人の写真を撮る。	
地図係	地図を見ながら、事前に決めた経路通りに進むように歩き回す。おぼつかない場所や発見の自覚に、必ずメモに記録する。	
時間係	予定する時間や場所を見つける。(4人の場合はなし)	

□ まち歩きで注意すること

〇交通ルールを守る。交通量が多いところには歩行者専用道を使う。

〇歩道は1歩幅の間、1歩幅でなくてたくさん歩きましょう。同じものや場所を撮影する場所でも、まわりの景色のようすがわかるように歩きましょう。ズームアップして撮ってほしい1歩のズームアップした画像だけでは、見る人に情報を十分に伝えることができません。注意しましょう。

見る人にとってわかりやすい写真を撮りましょう。



空気が汚い、おれのことばかり写すのはいけません。おれのと周りの景色にそろそろいっしょに撮りましょう。



きれいなものや風景

□ 他にもどんなことに注意したらいいかな？

■まち歩きのルートやインタビュー場所についてグループで話し合い、事前に設定し、地図上で確認します。



- まち歩きで使う記録用のワークシートの記入方法を理解します。

WS-7

自由に発見をしてみよう！

1. 町歩き調査の目的を説明する。

2. 町歩き調査の場所を地図で示す。

3. 町歩き調査の経路を地図で示す。

4. 町歩き調査の結果を記録する。

5. 町歩き調査の結果を整理する。

項目	内容	日時	場所	発見	感想
6					
7					
8					
9					
10					

- まち歩きに継続して取り組むことにより、まち並みの変化を知ることができます。例えば、前年度の発見ポイントが翌年どのように変わったのか、定点ポイントを経年で観察していくことができます。

- インタビューでは、予め質問毎に分担者を決めます。またインタビューシートに、記録をとります。

きよねん	ことし
<p>【きよねんの写真】</p>  <p>【メモ】 さらちが売りにだされていた ★分るい：(エ) さらち</p>	★分るい：
<p>【きよねんの写真】</p>  <p>【メモ】 たちそうな家があった。はやくたってほしい。 ★分るい：(ウ) 建設中の家</p>	★分るい：

WS-8

インタビューシート

1. インタビューの目的

2. インタビューの場所

3. インタビューの日時

4. インタビューの担当者

5. インタビューの結果

6. インタビューの感想

7. インタビューの記録

8. インタビューの整理

9. インタビューの報告

10. インタビューの振り返り

4 まち歩きと振り返り

- まち歩き後、マップづくりへと進む前に、児童の思考を深め、探求活動を連続・発展させるために振り返りを行うことが重要です。
- 振り返りでは、学習のねらいに基づきまち歩きで収集した情報を整理するなど、振り返りの視点を明確にしておくことが大切です。

振り返り ワークシート1

1. 町歩き調査の目的を説明する。

2. 町歩き調査の場所を地図で示す。

3. 町歩き調査の経路を地図で示す。

4. 町歩き調査の結果を記録する。

5. 町歩き調査の結果を整理する。

6. 町歩き調査の結果を報告する。

7. 町歩き調査の結果を振り返る。

WS-9

振り返り ワークシート2

1. 町歩き調査の目的を説明する。

2. 町歩き調査の場所を地図で示す。

3. 町歩き調査の経路を地図で示す。

4. 町歩き調査の結果を記録する。

5. 町歩き調査の結果を整理する。

6. 町歩き調査の結果を報告する。

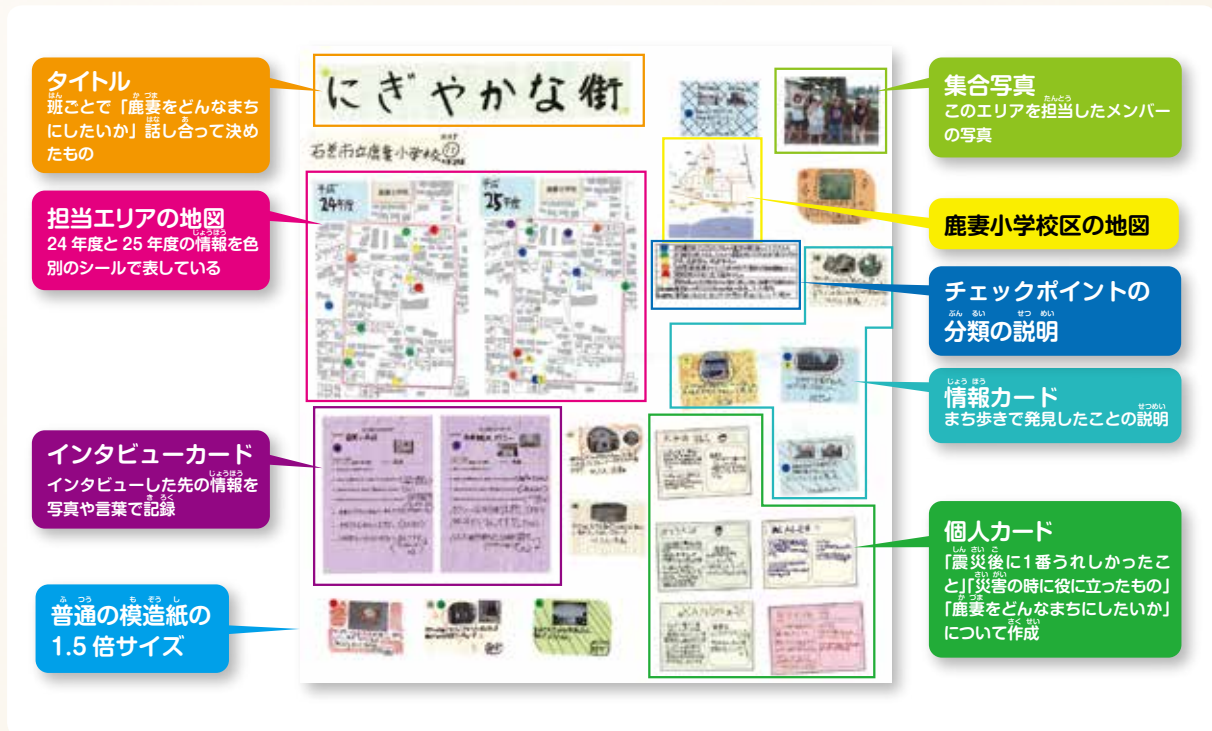
7. 町歩き調査の結果を振り返る。

WS-10

5 マップづくり

■マップの構成

「マップ」に収められる情報は、地図に限定されません。まち歩きで収集した情報を整理・選択し、模造紙に担当したエリアの地図とともに「マップ」としてまとめていきます。



【平成25年度鹿妻復興マップの例】

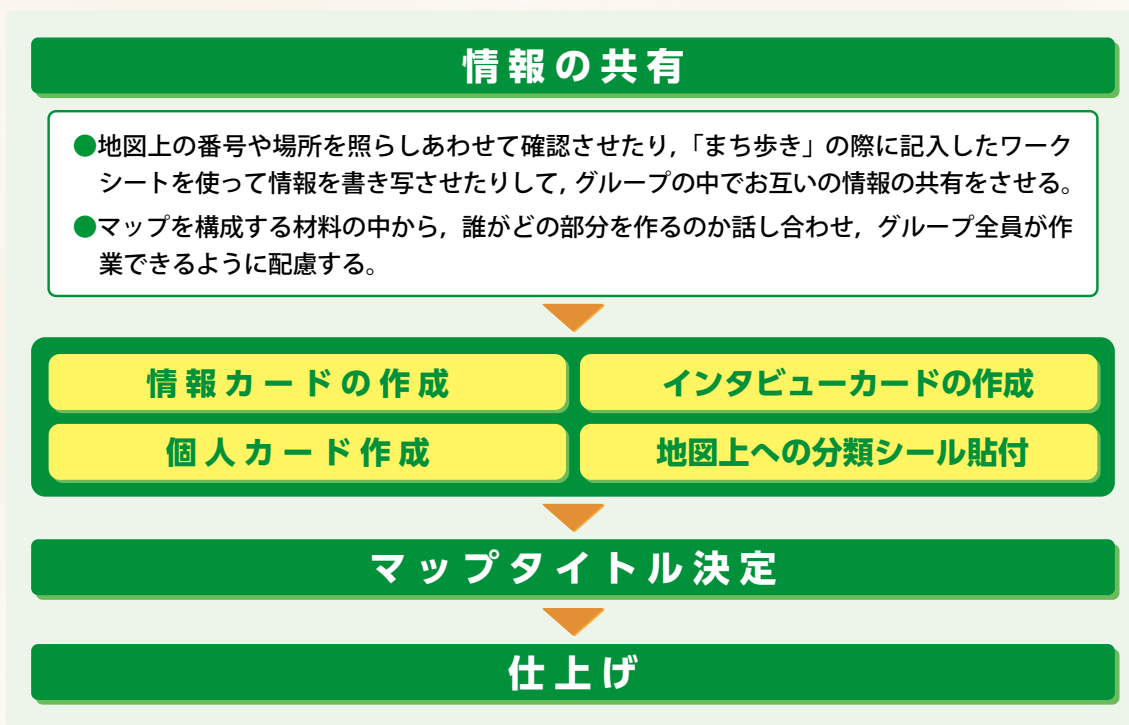
- タイトル …………… 地域をどんなまちにしたいか話し合って決めたもの
- 集合写真 …………… このエリアを担当したメンバーの写真
- 小学校区の地図 …………… 担当エリアを別の色でわかるように表示
- 担当エリアの地図 …………… 発見ポイントの情報を色別に表示
- 発見ポイント分類の説明
- 情報カード …………… まち歩きで発見したことの説明
- インタビューカード …………… インタビュー先の情報や写真
- 個人カード …………… 個々人が家族インタビューをもとに作成

準備するもの（例）

- 模造紙
- インタビューシート
- 学区全体図(教育委員会から提供)
- 色別シール(発見ポイントの分類を色わけするため)
- エリア地図
- マップに使用するカード(情報カード、個人カード、タイトルカード)^{※2}
- 筆記用具(色鉛筆、フェルトペン、マーカー、はさみ、のり、両面テープ^{※1})
- 「まち歩き」でとった写真 ^{※1} 両面テープは、模造紙に写真を貼るため。仮どめのテープがあるとさらに便利
- まち歩きシート ^{※2} まち歩きで集めた情報をカード化して個別にまとめることにより、各人で作成ができ作業の効率化が図られる

■マップづくりの流れ

発見したことや気づいたことを教え合い、自分と友だちの考えと比べながら整理することで、多様な見方や考え方を育成することにつながります。(協同的な話し合い)



情報カードの作成

- カードには、自分の名前を書いて、責任をもってカードを作成させます。
- 調べたことをカードに書き出す。その際、1枚のカードに1地点の情報を記述することを伝えます。
- 必要な写真を選んでカードに貼らせます。
- 色別分類シールをはり番号をつけさせます。



インタビューカードの作成

- 質問ごとに1枚ずつの質問カードに記入させ、それをインタビュー先ごとに1枚のインタビューカードに貼付けることで作業の効率化をはかります。
- 質問毎のカードに自分の名前を書いて、責任をもってカードを作成させることも一案。
- インタビュー毎に感想をまとめます。
- 各人の作成したカードをひとつのインタビューカードに貼付けて完成させます。

WS-10

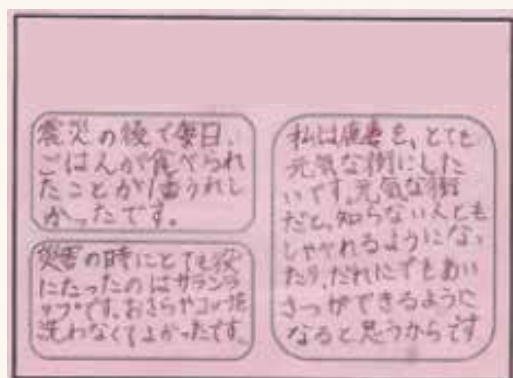
地図上への分類シール貼付

- 自分たちが歩いた経路と調べた場所を順に確認しながら、グループのエリア地図に分類別の色シールを正確にはらせませす。
- 地図上にはったシールの上に番号をふらせませす。
- ひとつの分類に決められない場合は、シールを複数枚はらせませす。



個人カード作成

- 東日本大震災当時のことについての家族へのインタビューの内容や自分自身の思いや感想を書かせませす。
- 「まち歩き」をして感じたことや発見したこと、これからの地域に対する自分の思いや願いを書かせませす。



マップタイトル決定

- タイトルには、子どもたちの「これからのまちを考え、どんなまちになってほしいか」を表します。
- 単元の目標に関わる重要な部分であり、十分に考える時間をとります。
- まち歩きで調べたことや地域の人々とのかかわりを通して、気づいたこと、うれしかったことを思い出させて、自分たちにできること考えさせませす。
- 自分のまちをどのようなまちにしたいかグループで話し合わせませす。
- グループで決めたタイトルをタイトルカードに記入します。

WS-12

復興マップのタイトルを考えよう!

— ね — め — り — び — び — び —

□ 復興マップのタイトルは、みんなの思いや願いを大切にしたいです。また、復興マップは、一人ひとりで決めるのではなく、みんなで決めます。

1. 2人が話し合ったり、3人（グループ）の話し合いを大切にしてください。

2. 復興マップのタイトルは、みんなの思いや願いを大切にしてください。自分で決めることもいいです。

3. みんなの思いや願いを大切にしてください。

□ みんなで決めた「復興マップのタイトル」は、復興マップのタイトルカードに記入してください。

※ 復興マップのタイトルは、みんなの思いや願いを大切にしてください。

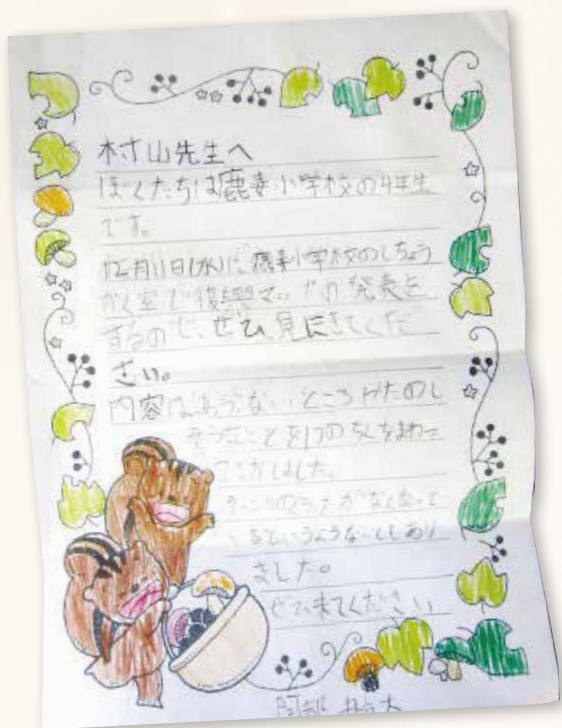
(例)
 「自然豊かな緑の町」「明るい 楽しい きれいな町」「しあわせでにぎやかな楽しい○○」「安全でみんながくらしやすい笑顔いっぱい町」

仕上げ

- 作成した全てのカード(情報カード、個人カード、タイトルカード)とエリア地図、分類表等を台紙(模造紙)の上に置いて、配置を確認してから貼らせませす。

6 マップの発表

- 「まち歩き」でお世話になった人や発表会に招待したい人を考え、感謝の気持ちをこめて手紙（招待状）を書かせます学習活動における情報を整理し発表することで、自分の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてきます。
- 発表する相手に応じて伝え方を考え、分かりやすく伝えることができますようにします。



発表準備用ワークシート

WS-15

復興マップについて発表してみよう!

名前 _____

1. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

2. 発表の準備として、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

3. 発表の準備として、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

4. 発表の準備として、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

5. 発表の準備として、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

発表会参加用ワークシート

WS-12

WS-13

WS-16

復興マップ学年発表会

名前 _____

1. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

2. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

3. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

4. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

保護者・地域へのアンケート

WS-17

WS-18

復興マップ制作活動の感想アンケート

1. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

2. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

3. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

4. 復興マップの制作活動を通して、自分たちが学んだことや感じたことを、発表の準備として、自分自身で整理しよう。

7 事後アンケートの実施

全ての学習が終了した後にアンケートを実施します。学習前後の子どもたちの知識や関心、態度の変容を把握するために、以下の質問で構成されます。

復興マップづくり用

WS - 19

事後アンケート（復興マップ）

1. 復興マップ、復興マップづくりをやってみて、思ったことや感じたことを思い出し、思いをはせて、全て自身の手で表現してください。思いは思いのままに表現してください。

- ① OOO（復興地）のことがたくさんあるように表現。
- ② OOOの復興をよすがにしてください。
- ③ 思いのOを表現に「思」の字を必ず入れる。
- ④ OOOの手紙の裏面に書き込んでください。
- ⑤ 思いのOと一緒に書き込んでください。思いのOは必ず表現してください。

2. 復興マップ、復興マップづくりをして、OOOの復興地を思い出して、復興マップを完成させ、復興マップを完成させよう。

3. この復興マップの裏面に書き込んでください。

4. 思いのOを（復興地）OOOと併せて書き込んでください。思いのOを必ず書き込んでください。

5. 4の復興マップ、思いのOを（復興地）OOOと併せて書き込んでください。思いのOを必ず書き込んでください。

復興・防災マップづくり用

WS - 20

復興・防災マップづくり用

復興地（復興地）OOOの復興地を思い出して、復興マップを完成させよう。

復興地	復興地	復興地	復興地	復興地
復興地	復興地	復興地	復興地	復興地

復興地（復興地）OOOの復興地を思い出して、復興マップを完成させよう。

復興地	復興地	復興地	復興地	復興地
復興地	復興地	復興地	復興地	復興地

復興地（復興地）OOOの復興地を思い出して、復興マップを完成させよう。

復興地	復興地	復興地	復興地	復興地
復興地	復興地	復興地	復興地	復興地

3 | マップの授業での活用

子どもたちが作成した「マップ」には学区の復興の記録や、防災に関する記録が蓄積されています。そして、何よりも単元全体の自分たちの学習活動の足跡がわかる資料となっています。自分たちが作成した「マップ」を教材として活用することで、自分たちの活動に対する成就感をもち自分への自信、今後の活動への意欲につなげることができると考えます。

また、単元全体の学習活動の前後における自己の変容に気づくようにさせることが重要です。さらに、地域の復興や防災を自分たちの課題としてより身近に捉え、考えるきっかけとしていきたいところです。

(例)

- ・ 10年後のまち湊…マップを活用して10年後の災害に強い町づくりについて考え、まとめ、復興の担い手としての意識を高める
- ・ 鹿妻復興マップ…完成した「復興マップづくりー活動のまとめ」を活用し、地域について愛着を深め、自分の成長に気づき、地域のために自分ができることを考える

(例) H27 渡波小学校 5年生復興マップづくり

段階	主な学習活動	教師の指導・支援	【観点】 評価規準（評価方法）
	1. 各グループのマップをつなぎあわせる	<ul style="list-style-type: none"> ● 渡波小学校区のマップの全体像を見つめることで、現在の復興の様子を確認できるようにする 	
	2. マップをみて、気づいたことをワークシートに書く	<p>マップを見て、どんなことに気づいたかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 何色のシールが目立つのか、復興は進んでいるのか等について、自由に記述できるようにする。また、時間を十分に確保することでより多くの視点に気づかせたい 	<p>地域の復興の様子を確認し、地域の良さに気づくことができる【主体的、創造的に問題を解決する態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マップの全体像からどの色が目立つか助言する ● 未来像を書く際には、今後のまちがどのようなようになってほしいか考えさせる
	3. ワークシートにカいた内容を発表したり、友達と気づいたことを伝えたりする	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表者の気づきを認め合ったり賞賛しあったりできるよう助言する 	
	4. 今後の渡波地区の未来像についてワークシートに書く	<p>私たちに何かできないかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 記述の際に、大人と協力して自分たちにできそうなことや自分自身にできそうなことの視点を与えることで記述しやすいようにする 	
	5. 次時の学習内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ● 各班が調査した内容の発表に向けての準備をすることを告げる 	



4 | 情報共有プラットフォームの構築と活用

■まち歩きとマップづくりを災害復興・防災教育の学習として継続して行うことが大切です。

●継続することにより、子どもたち自身がまちの復興・防災情報の変化を体験・体感することができます。

■子どもたちの手により記録された情報は、紙媒体だけでなくデジタルデータとして記録・保管していくことも可能です。

●デジタル化された情報は、検索が容易になります。

●年月が経った後に、新しい世代の子どもたちが先輩の作った情報をもとに地域の復興の状況について学ぶことができます。

情報共有プラットフォーム

【参考】鹿妻小学校「復興マップ」のデジタル化（例）

平成 24, 25, 26 年度の復興マップの情報をもとに、鹿妻小学校の災害復興情報共有プラットフォームを構築しました。

鹿妻復興マップづくり 情報共有プラットフォームのトップページ。

紙媒体のマップの3年分の情報をデジタル化することにより、蓄積されたデータの検索を行いやすくなります↓



■例えば、情報共有プラットフォームをオリエンテーションで活用した場合の指導案を以下に示します。

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名 「まち歩きと復興マップづくり」

本時の指導 (2/17)

ねらい 「鹿妻復興マップ」情報共有プラットフォームを活用して、これまでの地域の復興の状況について知り、自分たちの地域の様子に関心をもち進んで調べようとする。

●指導過程

学習活動	教師の指導・支援	評価
<p>1. 本時の学習内容を知る。 「鹿妻復興マップ」プラットフォームを活用して自分たちのマップづくりを考えてみよう</p> <p>「鹿妻復興マップ」プラットフォームを活用して自分たちのマップづくりを考えてみよう</p> <p>●これまでの「鹿妻復興マップ」を検索する</p>	<p>●学習課題をつかませる</p> <p>●H24～26年の3年間の「鹿妻復興マップ」調べ、「復興マップ」とはどんなものか関心をもたせる</p> <p>トップページ画面から「復興マップ」タブを押す</p>	
<p>2. グループごとに実際にパソコンを使用し調べる</p> <p>●自分たちがまち歩きする各エリアの情報カードを見る</p> <p>トップページ画面「キーワードで調べる」の「エリア」で①～②のエリアで検索。</p> <p>●各エリアのインタビューカードを見る</p> <p>同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→インタビュー」で検索。</p> <p>●定点の移り変わりを調べる</p> <p>同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→定点のうつりかわり」で検索。</p>	<p>●自分たちの身近な場所や知っているお店などのカードを検索させ、興味をもたせる</p> <p>●感想、地域の方々からのメッセージをみて、これまで気付かなかった良い所をたくさん見つけさせる</p> <p>●これから自分たちがインタビューする参考にさせる</p> <p>●これまでの地域の復興の状況をカードの内容と写真から、具体的に捉えさせる</p> <p>●定点の様子が今はどうなっているか興味をもたせ、今後の「まち歩き」に関心をもたせる</p>	<p>●これまでの地域の復興の状況について興味をもって調べている</p>
<p>3. 自分たちの「マップづくり」を考える</p> <p>●プラットフォームを見て、自分たちの「まち歩き」で調べたい場所を考える</p>	<p>①定点の今年の変化</p> <p>②危険なままだった場所がどうなっているか</p> <p>③さら地だった場所の変化</p> <p>④新たに調べたい場所、など自分たちで調べたい場所を自由に考えさせる</p> <p>●これから自分たちが作成する「マップづくり」を考えるきっかけとさせる</p>	<p>同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→発見ポイントの分類ア～キ」で検索。</p>

学習活動2で、「作成年度（H24, 25, 26年度）」×「エリア①」で検索した結果、46枚の情報カードがあることがわかる。写真は、見つかった情報カードの例。



学習活動2で、「作成年度（H25, 26年度）」×「分類（インタビュー）」で検索した結果、61枚のインタビューカードがあることがわかる。写真は、見つかったカードの例。



学習活動2で、「作成年度（H26）」×「エリア⑥」×「分類（オ危険と思うもの）」で検索し、「地図を見る」にチェックを入れると、5箇所の情報が地図上に示される。位置情報をもとに、実際のまち歩きで現在の状態を確認することができる。

